



「その」手術室外での鎮静・鎮痛 安全ですか

国土典宏／監修，横田美幸 森崎 浩／編集

A5 判/226 頁 定価 5,500 円（本体 5,000 円＋税10%） ISBN 978-4-7719-0622-8
克誠堂出版，2025 年 11 月 10 日発行

評者 河合 隆

東京医科大学名誉教授

消化管の内視鏡診断・治療における進歩はめざましい。診断面では，通常の白色光観察から，NBI などの画像強調観察，さらには AI 診断と進化し，治療面では，ポリペクトミーから，内視鏡的切除，内視鏡的粘膜下層剥離術，さらには内視鏡的全層切除にまで進化している。一方で，内視鏡検査・治療中に伴う苦痛から，内視鏡検査を受けることを躊躇される患者さんも多い。苦痛の少ない方法で受けていただく方向に変わりつつあるが，そこで重要となるのが，内視鏡検査・治療中の鎮静・鎮痛である。鎮静・鎮痛を学ぶ機会は少なく，臨床現場で指導医からその手技を伝承しているのが現状であろう。しかし鎮静・鎮痛に関する正しい知識を十分に習得したうえで内視鏡診断・治療を行うことが肝要である。

このたび，国立健康危機管理研究機構理事長国土典宏先生の監修で『「その」手術室以外での鎮静・鎮痛 安全ですか』が発刊された。総論では，鎮静・鎮痛は全身麻酔と同様に危険を伴う医療行為であり，安全性を最優先してしかるべきであるとして，まずはじめに医事紛争を取り上げ解説している。実際の事例の紹介のみでなく，医療従事者が留意すべき対策方法も解説している。また，麻酔・鎮静・鎮痛と自然睡眠を同じように考えている患者・家族，さらには医療従事者も多い。自然睡眠では呼吸・循環動態は障害されないが，鎮静では呼吸・循環動

態は障害される。そのため，目的を達成するために必要な鎮静レベルおよび薬剤投与による危険性を十分理解し，安全に鎮静を行うための薬剤を含めた計画・方法，患者評価を含めたモニタリング，医療機器，体制管理の整備の重要性を指摘している。また，鎮静・鎮痛の適切で十分な説明を行い，口頭でなく書面での同意を得ることも必要である。さらに，実際に使用する薬剤に関して，2025 年消化管内視鏡診療時の鎮静として保険適用されたレミゾラムをはじめ，デクスメドミジン，ミダゾラム，プロポフォールなどの薬剤の特徴，留意点，再鎮静，呼吸抑制リスクなどが詳細に記載されている。まずはぜひとも一読していただきたい。

各論では，本書のタイトル“手術室外での”にあるように，消化器内視鏡，循環器，呼吸器，救命救急センター，精神科救急，歯科，集中治療室，緩和ケア，小児，高齢者，放射線治療，検診という幅広い領域における鎮静・鎮痛について，図表を用いて解説している。

International Committee for the Advancement of Procedural Sedation では，鎮静とは，“診断および治療のために薬事を用いて，気道，自発呼吸，気道反射および循環を維持したまま不安や痛みを緩和する処置”と提案している。本書が，安全で質の高い鎮静を日本中の多くの患者さんに提供する一助になることを祈願する。